

(第3種郵便物認可)

「愚子さんの体にあざがあったという情報があります」。今年2月、京都市の主婦(38)は電話で告げられた。前夫(48)が引き取った長男(10)と長女(7)が通う静岡県内の小学校の教諭からだった。前夫は結婚当初から家庭で敬語を使うよう強制し、ささいな失敗に激しく怒った。しつげにも厳しく、子どもにも手を上げた。精神的に耐えられず離婚を決意。子どもは引き取るつもりだったが、長男が転校を嫌がった。前夫は子どもと暮らしたいと懇願し「しかり方を改める。子どもに月1回会わせる」と約束したため、まかせることになった。

ところが前夫が約束を守ったのは最初の半年だけ。次第に面会に難色を示し、学校が長期休みの時しか会わせなくなってきた。この夏休み、1日だけ会えた長男は「お父さんにはよく怒られるけ

一人親手を上げる前に

救え幼い命

児童虐待の現場から

⑥

ど、謝っておけば大丈夫だから。まだ我慢できる」と話した。前夫に「虐待」

い。間に立って調整する

「お母さんにはいつでも会っていいよ。奈良県

「行ってきまーす」。元

離婚後も協力を

を問いただしたり、親権者変更を求めれば、逆上して子どもが更に危険になる気がする。「次に会えるのは冬休み」と涙をぬぐった。

7月初め、東京都内の公園で、幼い兄弟が小川の水を浴びて遊んでいた。2人を見守る両親のそばには、離婚後の親子の面会を仲介する「NPOのびっと」(横浜市中区)の古市理奈理事長(39)がいた。離婚した夫婦の対立が激しいと、子どもの面会で協力できな



離れて住む子どもたちの写真を手にする女性
＝京都市内で、望月亮一撮影

の会社員男性(39)は長女(10)と長男(5)にこう話している。離婚して子どもと暮らす父子家庭だ。元妻(37)は子どもに厳しくあつた。甘えてま

「行ってきまーす」。元

「行ってきまーす」。元

児童虐待に関する皆さんの意見をお聞かせください。この連載に対する感想もお寄せください。メール o.shakaibu@mainichi.co.jp、ファクス06・6346・8187か、〒530-8251 毎日新聞社会部「児童虐待取材班」(住所不要)まで。

引き取れた。親権は得たが「子どもには母親の姿を知って育ってほしい」と、月1回以上、泊まり掛けで元妻に会わせている。「今度、お母さんと会う時に着て行く服を買おう」などと、元妻との面会を嫌がっていないと態度で示すようにしている。

「行ってきまーす」。元